

氏 名	田中竜馬
研修先機関名	Michigan State University/Sparrow Hospital
<p>Michigan State University Sparrow Hospital で小児科研修を始めて16週間が経過した。一言で言えば英語でのコミュニケーションとシステムの違いへの適応に悪戦苦闘の16週間であった。最初の小児循環器ローテーションでは一日8人程度の外来患者のカルテを全て、電話に向って口頭記述しなければならず、通常30分程度で済むはずのところ半日を費やした。日本で7年間の臨床経験があることがアドバンテージとなり、意外と苦勞しないで済むのではないかという当初の淡い期待は最初の日ですぐに打ち砕かれた。単身ミシガンへ乗り込み、日本語を話す機会ほぼゼロという環境では、伝えたい事が円滑に伝えられないというストレスが大きく、余裕が持てず医学知識を活かすところには至らない。脳梗塞で失語になった状況を毎日疑似体験しているかのようなのである。研修医の役割も少し異なり、処置等が少ない代わりに、早いサイクルで入院し入れ替わる患者とのコミュニケーションに重きがある。医学知識においても、経験していない疾患に対する知識も広く浅く教科書を覚えて、上級医との会話に素早く反応できるようにするスタイルだという印象を持った。兎にも角にも、話し言葉の重要性が非常に高いということである。</p> <p>日本の最大都市東京からアメリカの地方の大学町に移動したということも大きく影響しているはずであるが、一市民としての生活ぶり、実際に患者さんが享受する医療現場での水準という意味では日本の方が高いという印象であった。何故、住みにくいアメリカまでわざわざ来たのだろうか、と自問することもあるが、日本人以外の人間が自分に対してどういう印象を持つかということは重要なフィードバックとなり、将来世界へ発信したいという自分には掛け替えの無い経験となるはずである、と信じて忍耐の日々を続けている。</p>	